

医療ビッグデータ利活用の代表銘柄

投資判断(12/23)

メディカル・データ・ビジョン (3902・東証1部)

Overweight 継続

株価	投資単位	時価総額	年初来高値	年初来安値	PER(予)
1,199円 (12/23)	100株	479.9億円 (12/23)	3,185円 (21/1/5)	1,081円 (21/12/21)	49.5倍 (12/23)

ビッグデータ関連では割安感鮮明に

■大規模診療データベースを活用した分析ニーズ高まる

21年12月期第3四半期累計(1-9月)の連結業績は、売上高3,952百万円(前年同期比25.3%増)、営業利益1,037百万円(同32.6%増)だった。新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、柔軟な医療提供体制、データ活用、健康予防の重要性が再認識されるなか、データ利用サービスにおいては、メディカル・データ・ビジョン(MDV)が保有する大規模診療データベースを利活用する製薬会社向け調査・分析サービスおよびWEB分析ツールが堅調だった。診療データ調査分析は、製薬会社のMR(医薬情報担当者)だけでなく、別部門での利用も増えた。製薬会社は縦割り組織であるところも多く、MR以外でも活用されるようになったのは大きい。MDV analyzerは、これまでの商品ラインナップに加え、顧客ニーズに合致した商品を拡充したことが奏功し、MDV analyzerの利用が増えた。

21年12月期の連結業績予想は、売上高5,450百万円(前期比19.0%増)、営業利益1,402百万円(同22.3%増)を据え置いている。

■SBI損保と業務提携、BtoC分野の強化にも注目

12月22日、SBIホールディングス(8473)傘下のSBI損保との業務提携を締結した。MDVの持つ診療データベースを保険商品の開発に活用する。同損保の契約件数は117万件超を誇り、保険商品にMDVの診療データベースを活用することで質向上が期待され、さらなる契約者の増加や、データ利用の幅が広がる可能性がある。また、SBIホールディングスによる株式の追加取得もあり、同グループでの横断的な提携への思惑も膨らむ。

このほか、最近のMDVはBtoC向け新サービスを相次いで発表している。11月17日にはAIブロックチェーン技術を実装した世界初の多企業連携型ヘルスケアネットワークを構築。個人の分散されている健康情報を統合するだけでなく、オンライン上で本人確認が可能なeKYC連携が可能でセキュリティ面も万全だ。29日にはこのプラットフォームに連動する健康診断AI「Hyper Checkup」と2型糖尿病AI「dAlbet」という2つのサービスの利用受付も開始した。健康診断の情報をもとに、再検査の重要性がどの疾病をターゲットにした

業績動向(12/23時点)

		売上高 (百万円)	前年比 (%)	営業利益 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)
19年12月期	実績	4,026	12.5	809	130.3	804	128.7	554	697.9	13.9
20年12月期	実績	4,579	13.7	1,146	41.6	1,148	42.7	700	26.3	17.7
21年12月期	会社予想	5,450	19.0	1,402	22.3	1,400	21.9	950	35.7	24.2
	MS予想	5,450	19.0	1,402	22.3	1,400	21.9	950	35.7	24.2
22年12月期	MS予想	6,800	24.8	1,800	28.4	1,800	28.6	1,200	26.3	30.6



検査を受けるべきかといった分析も可能となるだけでなく、個別の疾病単位での予測も可能となる。既存のBtoC向けサービスでも、診療情報共有WEBサービス「カルテコ」の導入や稼働が増えている。

MDV analyzerの伸長が業績を底上げし、診療データ調査分析は今後も年率20%の成長率を見込むなか、BtoC分野が本格的な収益化により今後の新たな成長ドライバーとして期待が大きい。SBIグループとの関係の深化で投資家の関心も向かいやすく、同社への見方が改まりそうだ。

コロナ収束につれて、フィンテックやビッグデータ関連銘柄は軒並み調整しており、前回リポート掲載時の業界平均PER80倍前後だったが、足元では同70倍弱まで低下している。これを踏まえ、想定株価レンジは、モーニングスターによる22年12月期の予想EPS30.6円から算出した2,050円前後と、今期の会社予想EPS24.2円から算出した1,600円強を参考に、1,600-2,000円(従来は2,000-2,500円)に見直す。ただ、今後5年間の売上高成長率を25%超、営業利益率を30%超とする見方に変更はない。12月23日終値ベースの同社のPERは50倍前後であり、業界内でも割安の水準と考え、上値余地も大きいことから、投資判断は「Overweight」を継続する。

(宮川 子平)

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポートの読み方

特 徴

(1) 第三者機関として中立的な立場を重視

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポートは、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場を重要視し、客観的な比較・評価情報の提供に努めています。モーニングスターがカバーする全銘柄に対し、アナリスト個人の見解に加え、複数のアナリストから成る銘柄評価委員会の意見を反映し、投資判断・想定株価レンジ・業績予想を決定しています。

(2) カバー銘柄のユニバース

カバー銘柄は下記対象銘柄から銘柄評価委員会が選出しています。

【銘柄選定基準】

- アナリストのカバー率が低い国内新興市場上場銘柄
- 個人投資家からの人気が高い銘柄（各オンライン証券のデータを参考）
- 時価総額を考慮（50 億円程度以上を目安）
- 整理、監理銘柄や継続疑義、債務超過銘柄を除く

(3) 3 段階の投資判断

カバー銘柄に対する投資判断は、モーニングスターの各アナリストによる調査・取材・分析を基に銘柄評価委員会の協議を経て決定しています。下記の基準を基に3段階（最上位から「Overweight」（オーバーウエート）、「Neutral」（ニュートラル）、「Underweight」（アンダーウエート））で予測しています。

Overweight（オーバーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を 15%以上上回ると予測される場合

Neutral（ニュートラル）

今後、半年間の株価推移が現値水準の - 15%～+ 15%にとどまると予測される場合

Underweight（アンダーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を 15%以上下回ると予測される場合

モーニングスターでは業績見通しや財務状況、株価の値動きなどに関する見解の変更により、機動的に投資判断を変更します。ただし、影響力のある、新しい情報が明らかとなり、判断に時間を要する場合には投資判断を「Under Review」（保留）とする場合があります。また、取引時間中の投資判断の変更は行いません。アナリストが退職した場合などは投資判断をいったん「Suspension」（停止）とする可能性があります。

(4) 中期的な想定株価レンジ

向こう半年間で想定される株価のレンジを示します。株価指標などを用いた適正株価水準のほか、チャートのフシ目や直近の高値・安値、トレンドライン、移動平均線などテクニカル面や価格帯別出来高なども考慮して、中期的な上値メド、下値メドを決定しています。

項目説明

■ アナリストコメント

直近の業績動向や事業環境について、取材に基づいた評価をコメントしています。投資判断の根拠や業績予想に対する見方、今後の事業展望などを記載し、株式投資をするうえで最も重要な情報を掲載しています。また、読みやすさを考慮してテーマごとに2～4つのパラグラフにまとめているほか、重要なポイントを太字で強調しております。

■ 業績動向

通期決算の実績2期分と会社予想、およびモーニングスターの独自予想を今期、来期の2期分掲載しております。各銘柄への取材に加え、四半期毎での過去の業績傾向やセグメント毎での分析に基づいて業績数値を予測しています。